

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成26年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム

「 高齢者の生きがい就労システムの社会実装 」

採択年度	平成25年度
実装責任者氏名	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫

1. 概要

(1) 実装活動の目標

[最終目標]

“セカンドライフの支援組織”として日本全国のシルバー人材センター（以下、センター）が生まれ変わり、広く国民から支持されるようになること。センターが社会的に有効に機能することで、誰もが退職後のセカンドライフの不安を覚えることなく、年齢に関わらず活躍し続けられるような未来社会を実現すること。

[H26年度活動目標]

千葉県柏市シルバー人材センター（以下、柏市センター）にジョブコーディネータ（以下、JC）を配置し、生きがい就労事業が培ってきた業務の開拓・提案、就労高齢者の募集・支援、マッチング、継続支援等のノウハウや機能の継承を図る。

(2) 実施項目・内容

①柏市センターにおけるジョブコーディネータの配置と活動実践

センターへの生きがい就労の実装を図るため、柏市センターにおいてJCを採用し、3か月の研修期間を経た後、業務の開拓・提案、就労高齢者の募集・支援、マッチング、継続支援の実践をJCが行った。東京大学高齢社会総合研究機構、柏市、柏市センターの三者による実装組織を継続して設置し、定期的に協議の場を設け、柏市センターでのJCによる活動状況の共有と活動支援の方法について協議を行った。

②ジョブコーディネータ活動のマニュアル化

柏市センターにおけるJCの活動を記録し、マニュアル化に向けた事例の蓄積を行った。しかし、全国センターへの普及に向けた汎用性の高いマニュアル作成には、柏市センター以外の事例との比較検討し、共通の条件と当該センター固有の条件と分類しながら進める必要があることから作成までには至っていない。

③他地域センターとの連携

横浜市シルバー人材センター及び横浜市、茅ヶ崎市シルバー人材センター及び茅ヶ崎市に対し、柏市センターでの取り組みを説明すると共に、H27年度の実装活動候補地としての提案を行い、次年度当初からの事業開始に向けた調整を行った。

④センターのあり方・機能拡充に関する研究

センターでの生きがい就労のためのマッチングのチャンネル（派遣、職業紹介、請負）やセンターでの新規事業の創出方法に関して、先駆的な取り組みをしているセンターと取り組み状況有すると共に、意見交換を行った。

⑤厚生労働省への報告・働きかけ

④で実施した意見交換の場に厚生労働省の出席を促し、センターでの生きがい就労の実践の状況や課題の共有を行った。

2. 実装活動の具体的内容

(1) 当該年度における実装活動の進め方

H25年度に策定した生きがい就労機能のセンター内への実装化具体計画、及びJCの採用・育成プログラムの策定に基づき、柏センターにJC2名を配置しa)業務の開拓・提案、b)就労高齢者の募集・支援、c)マッチング、d)継続支援を担うJCをセンター内に配置し、生きがい就労のセンターへの実装を図り（①柏市センターにおけるジョブコーディネータの配置と活動実践）、JC活動のマニュアル化に向けた活動記録を蓄積する（②ジョブコーディネータ活動のマニュアル化）。柏市センターにおける実績を踏まえ、H27年度に他地域への展開を図るため、横浜市センター、茅ヶ崎市センターと協議を行う（③他地域センターとの連携）。

並行して、生涯現役社会の構築に向け、“どこまでセンターが個人のセカンドライフを総合的に支援することができるか”、センターのセカンドライフ支援機能の実装化に向けて、関係者との協議を行う。

表 1 全体スケジュール

項目	平成25年度 (6ヶ月)	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (6ヶ月)
① 生きがい就労機能のセンター内への実装化具体計画策定	←→			
② ジョブコーディネータの採用・育成プログラムの策定	←→			
③ 柏市センターにおけるジョブコーディネータの配置と活動実践		←事前準備	←→	
④ 他地域センターとの連携 ⇒ジョブコーディネータの配置と活動実践	←事前調整		←→ 茅ヶ崎市センターでの活動実践	
⑤ ジョブコーディネータ活動のマニュアル化		←→		
⑥ センターのあり方・機能拡充に関する研究	←継続的活動		←事例ベースでの検討	
⑦ 厚生労働省への報告・働きかけ		←継続的活動		
⑧ まとめ				←→

(2) 実施内容

① 柏市センターにおけるジョブコーディネータの配置と活動実践

[H26年度計画概要]

- 柏市センターにJC2名を配置し、OJT教育を進めながら生きがい就労業務の開

拓・提案、就労高齢者の募集・支援、マッチング、継続支援の自立化を目指す。

- これまでセンターが主に実施してきた請負事業では生きがい就労は実現できないため（請負業務の制度上、単純労働が中心となり、高齢者の多様な就労ニーズには応えられない）、請負事業以外に職業紹介事業、派遣事業へと拡充する。

[H26年度実施事項]

a) 就労業務の開拓・提案

○就労業務の開拓の方法

生きがい就労業務の開拓はJCによる直接開拓、事業者からの相談による開拓、就労開拓員との連携による開拓、プラットフォーム事業との連携による開拓の4つの手法を主に用いて行った。

JCによる直接開拓では13業務が開拓されたが、一度の訪問により開拓された業務は少なく、一度営業訪問を行った事業者に対し、継続的に業務発生の有無の連絡を入れる過程で獲得できた業務が多くを占めている。最初の訪問から1年半後に獲得できた業務も存在しており、継続的な事業者への連絡がJCによる直接開拓の際に重要となっている。

事業者からの相談による開拓では、事業者から柏市センターに相談があり、それに対しJCが詳細を調整することにより業務開拓が行われる。柏市センター職員が事業者から相談を受けた際に、生きがい就労でどのような業務が対応可能かをセンター職員が把握できないために一度断り、その後断った業務をJCが再調整し、開拓を行った事例がみられており、事業者からの業務相談があった場合の対応方法をマニュアル化し、センター内で共有することが今後必要となる。

就労開拓員との連携は、就労開拓員が請負業務の開拓で訪問した際に生きがい就労業務の情報を収集し、その情報をJCに提供することによりJC詳細を調整し業務開拓するものであり、8業務が開拓され、またPFとの連携では4業務が開拓された。就労開拓員、PFとの連携は円滑に実施できている。

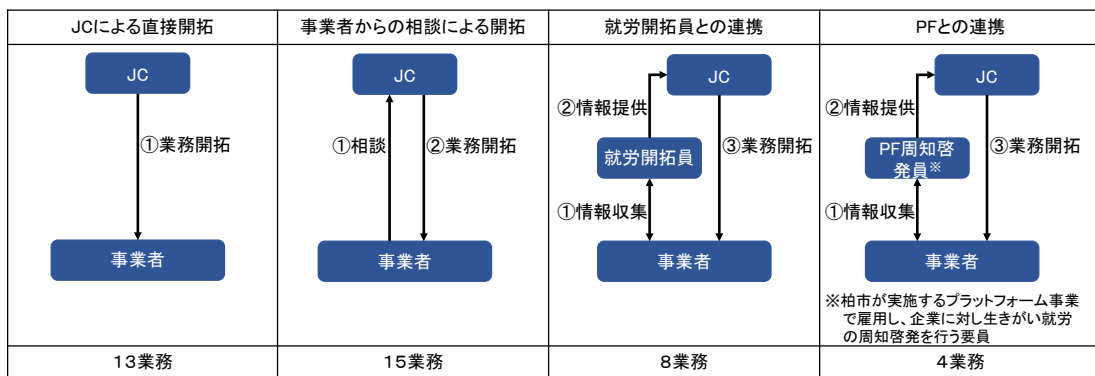


図 1 業務開拓の方法

○業務の切り出しの視点

既に実施されている業務から生きがい就労のための業務を切り出す視点、ポイントを獲得するため、介護施設及び保育園にJCが張り付き、参与観察を行った。

介護施設での食事準備、食事介助、トイレ誘導、入浴介助、清掃等の一連の業務や、保育園での、保育園での遊戯、食事準備、食事、片付け、着替え、おむつ

交換、昼寝、清掃等の一連の業務は、連続してリズムカル実施されている（図1、2参照）。個別の業務としては高齢者でも就労可能な業務であっても、それが一連の業務として連続して行われている場合には、切り出すこと自体に無理があるため生きがい就労として適当ではない。また、介護施設でのレク活動を高齢者が担うことも考えられるが、レク活動が施設職員と入所者とのコミュニケーションに重要な場であるため、全てを生きがい就労で担うことは適当ではない。

一方、介護施設での傾聴や見守り、裁縫等や、保育園でのおむつ交換、着替え、トイレ等、上述の連続して行われる一連の業務と輻輳して発生する業務に関しては、高齢者が担い職員を補助することにより、職員の仕事の質の向上につながる可能性があり、生きがい就労に適している。また、保育園では週初めに月曜午前中に園児が持参した昼寝用のバスタオルを寝具にセットする業務が発生する。このような、特定の曜日に集中して発生する業務は生きがい就労の業務として切り出すことは可能と考えられる。

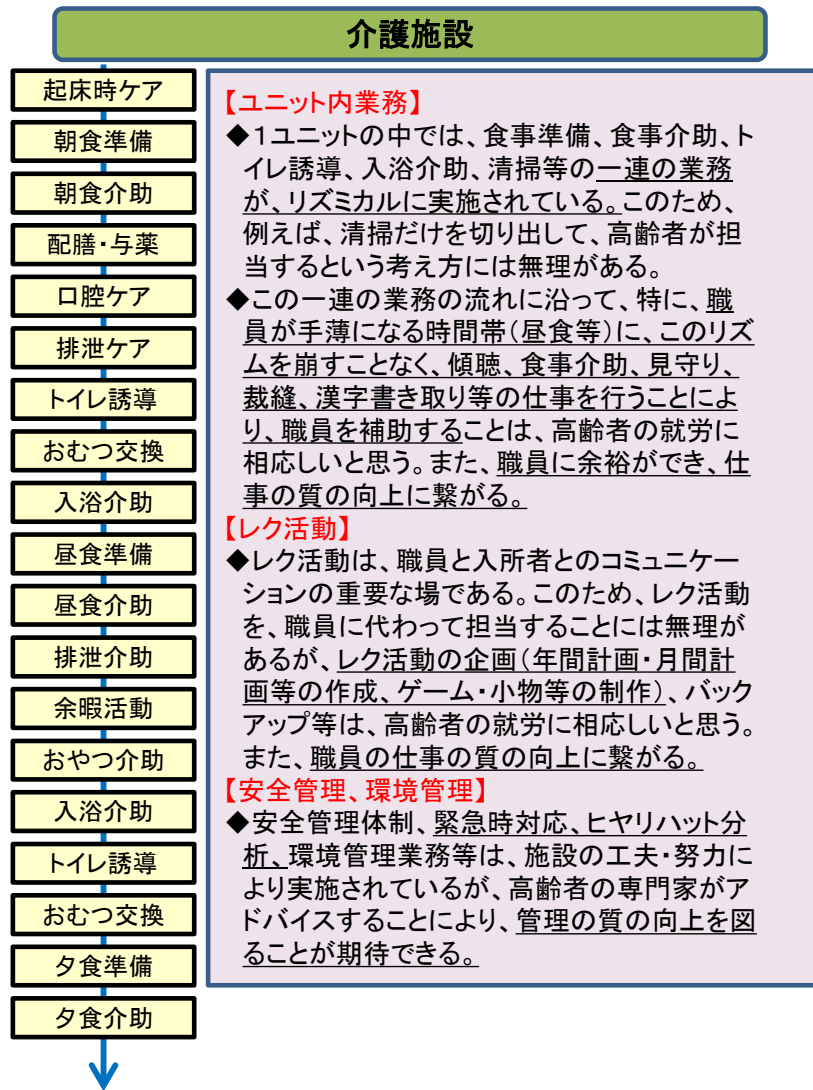


図 2 介護施設での業務の切り出しの可能性

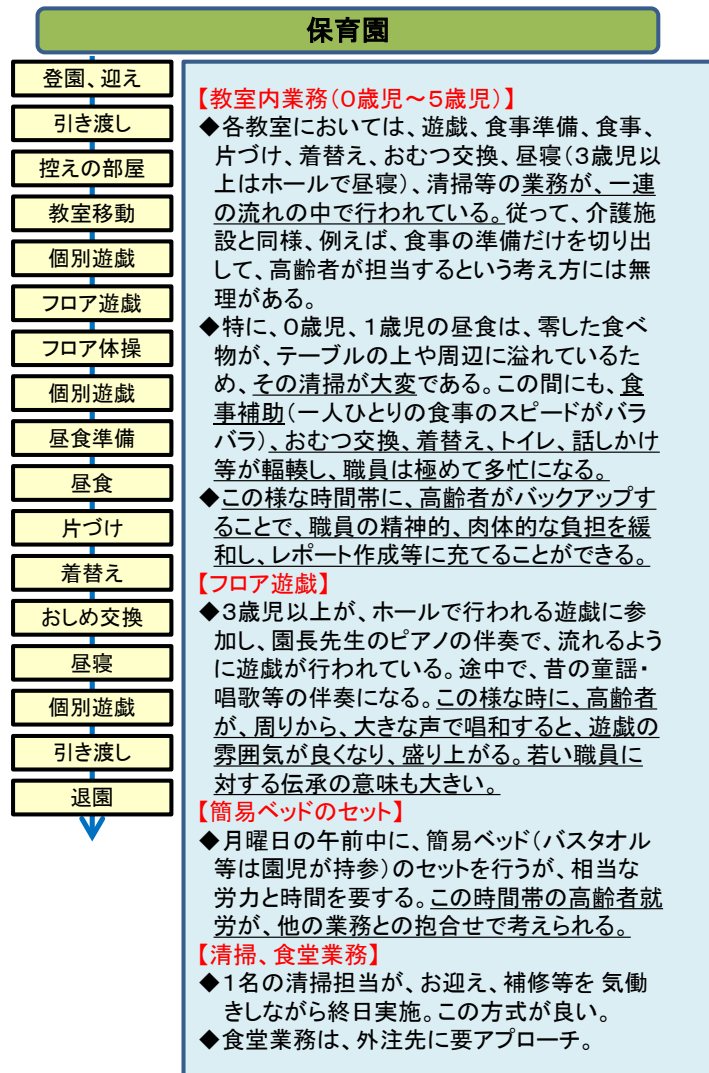


図 3 保育園での業務の切り出しの可能性

○開拓した業務の特徴

JCによる業務開拓の内訳としては、社会技術研究開発でIOGが開発した高齢者福祉、子育て、農業、生活支援業務で20事業所から求人依頼があり、その内訳は福祉施設送迎車両の運転と介護支援(食事補助含む)が大部分を占めており、これらに対する事業者側のニーズは高い(表2参照)。

新規開拓業務は事業者側からの求めに応じている部分もあり多岐に渡るが、特筆すべきものとして、障害者支援業務及び教育支援業務が挙げられる。障害者支援業務は障害者福祉施設での利用者の就職活動のサポート業務、障害者が製作した木材加工品・農産品目等の販路拡大業務、障害者福祉施設利用者の相談支援業務であり、それぞれ人事経験者、企業でのマーケティング業務経験者、社会福祉士・精神保健福祉士等の有資格者の就業が期待される。また、教育支援業務は柏市立小学校での理科の授業の際の支援員であり、昨年度に引き続き教育委員会か

らの求人が行われた。これら業務は社会課題となっている部分を生きがい就労により解決を図るものであり、今後生きがい就労のモデル的な業務として積極的に展開を図る。

表 2 H26年度に開拓した業務^{※1}の内訳 (H27年2月末現在)

単位：業務

	新規開拓業務		開拓済み業務 ^{※2}	
	業務数	主な内訳	業務数	主な内訳
有料 職業紹介	5	障害者の就職活動サポート、障害者施設利用者の相談支援、障害者製作商品の販路拡大、カルチャーセンター講師	6	福祉施設送迎車両の運転、介護支援
人材派遣	1	仕出し弁当の運搬	9	福祉施設送迎車両の運転、その他送迎車両の運転
請負	7	結婚式場の着付け支援、マナー研修講師、会議等テーブル起こし	3	子育て支援施設、福祉施設の食事補助・清掃
就労相談 (情報提供)	7	視察対応職員（市役所）、教育支援業務（教育委員会）、近隣センター臨時職員（市役所）	2	送迎車両の運転、福祉施設での食事補助
合計	20		20	

※1 求人依頼のあった業務ごとの企業数。同一企業が別業務を依頼している場合には、それぞれでカウント。求人依頼ベースであるため、マッチングが成功しなかったもの、現在調整中のものも含む

※2 開拓済み業務は社会技術研究開発（H22-H25）で開発した福祉、子育て、農業、生活支援業務

○開拓にあたっての課題

- 行政や社団法人の業務では人件費を最低賃金と同額程度に設定しており、センターの手数料部分の負担ができない事例が存在した。手数料収入がないためセンターの経営上のメリットはないが、会員にとっては貴重な就労の場であるため、就労相談という形で会員に対し求人情報提供を行った。しかし、情報提供では会員の個人属性に基づくきめ細やかなマッチングができないため、手数料負担の困難な事業者に対し、どのように対応するか、事例を積み重ねて検討する必要がある。

b) 就労高齢者の募集・支援

○センター入会説明会での生きがい就労の周知

JCがセンター入会説明会に参加したが会員への登録がない者に対し、非登録理由のヒアリング調査を行ったところ、希望する業務がない、魅力を感じないが多くを占めていた。そのためセンターへの入会説明会で柏市センターが積極的に生

生きがい就労に取り組んでいる旨を説明する機会を設け、就労高齢者の確保に努めた。

○セカンドライフプラットフォーム事業との連携

柏市は高齢者のセカンドライフ総合支援に向け、セカンドライフの社会参加に向けての個別相談の場であるセカンドライフ応援窓口と、セカンドライフへの意識変容のためのセカンドライフ応援窓口からなるセカンドライフプラットフォーム事業をH26年11月より、柏市から一般社団法人セカンドライフファクトリー(以下、SLF)への委託により開始した。就労高齢者の募集にあたってはこれらとの連携を図った(図3参照)。

セカンドライフ応援セミナーでは、JCが柏市センターでの生きがい就労の取り組みを報告し、柏市センターへの入会を勧奨した。2月末時点で14名が入会、2月及び3月の入会説明会申込者が13名となっている。

セカンドライフ応援窓口ではSLF担当者が就労を希望する人に対しセンターが生きがい就労に取り組んでいる旨を伝え、積極的に柏市センターへの入会勧奨を図った。窓口を訪れた高齢者には、当初就労ではなくボランティアや市民活動を希望していた人もいたが、その人の希望を深く尋ねたところ、就労かボランティア、市民活動という雇用関係の発生に固執しているのではなく、自らの活動を社会貢献につなげるという部分に固執している人も確認され、柏市センターで実施している生きがい就労の具体の業務の説明し、就労先によっては福祉等の社会貢献につながる場がある旨を説明し、最終的にセンターの説明会の応募に至ったケースも存在した。

就労高齢者の募集にあたっては、より上流部からのアウトリーチを実施し、生きがい就労という選択肢を高齢者が気づく機会を設置することが重要となっていた。

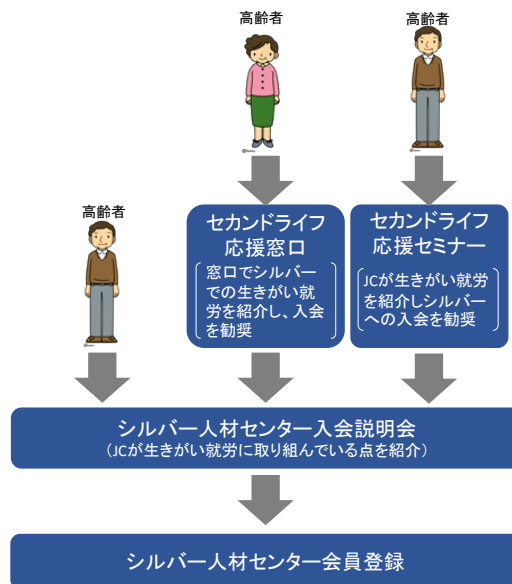


図4 柏市センターでの入会のためのアウトリーチ

○就労高齢者への支援

本年度マッチングした件数が最も多かった福祉施設送迎車両の運転では、ヘルパーの知識が求められることが多い。そのため就労希望の会員に対しては、千葉県シルバー人材センター連合会が実施している「介護職員初任者研修」、「福祉輸送ヘルパー養成講座」等（無料）の受講を積極的に呼びかけ、就労高齢者のスキルの確保に努めた。

また、スキル向上の機会の拡充に向け、柏市センターと自動車学校と連携した中型車両の運転研修会、柏市社会福祉協議会が実施（1回/年、参加費15,000円）している福祉有償運送運転者講習会の柏市センターとの共同開催による実施回数の拡大と参加費の低減等の検討を行った。これらの検討を基に、H27年度は研修会の実施に向けた検討を引き続き実施する。

c) マッチング

○マッチング実績

H26年度は合計18件の生きがい就労のマッチングを行った（表3参照）。生きがい就労のための職業紹介、人材派遣についても、それぞれ1件、8件のマッチングが行われ、就労に至るための利用制度の拡充も図ることができた。

また、業務の種類としては既に開拓済みの業務のマッチング実績が多いが、これは開拓済みの福祉施設送迎車両の運転業務を中心に就労先の開拓、提案、営業、及び就労高齢者の募集活動を行ったためである。

表 3 H26年度柏市センターでのマッチング実績（H27年2月末現在）


単位：人

	新規開拓業務		開拓済み業務※2	
	人数	主な内訳	人数	主な内訳
有料 職業紹介	0		1	福祉施設送迎車両の運転
人材派遣	1	仕出し弁当の運搬	7	福祉施設送迎車両の運転
請負	2	結婚式場のクローク受付、 仕出し弁当調理	2	福祉施設の食事補助・清掃
就労相談 (情報提供)	4	視察対応職員（市役所）、 近隣センター臨時職員（市役所）	1	福祉施設での食事補助
合計	7		11	

※1 求人依頼のあった業務ごとの企業数。同一企業が別業務を依頼している場合には、それぞれでカウント。求人依頼ベースであるため、マッチングが成功しなかったもの、現在調整中のものも含む

※2 開拓済み業務は社会技術研究開発（H22-H25）で開発した福祉、子育て、農業、生活支援業務

派遣の事例－1 … チームで就労

- (1) 事業者
 介護老人ホーム／デイサービス（車両：4台）
- (2) 仕事の内容（折衝過程で、①⇒②⇒③の通り充実）
- ①当初は、送迎車両の運転業務（朝方2時間、夕方2時間）のみ
- ②朝方と夕方、時々、小営繕（施設の軽微な補修、除草等）を追加
- ③朝方と夕方、時々、小営繕の他、**介護補助を追加し、朝方から夕方までの通し勤務**
- 
- | | | | |
|---|---|-------------|---|
| ① | 朝 | | 夕 |
| ② | 朝 | 小営繕 | 夕 |
| ③ | 朝 | 介護補助
小営繕 | 夕 |
- (3) 経緯
- ・同施設には、非常勤職員（運転業務、介護補助）として、6名が勤務。（いずれも、元シルバー会員。請負⇒派遣⇒雇用）
 - ・同施設は、運転業務の定年を70歳としており、9月30日で、3名が退職。（平成26年度末に、更に1名が退職予定）
 - ・同施設が、運転手の公募を実施。その結果、応募はあったが、人柄、信用において不適切であった。その後、応募なし。
 - ・営業活動中、同施設が運転手を公募している旨の情報を得て、柏シルバーが、人材派遣で対応する旨を約束した。
- (4) 就労状況等
- ・会員から、5名（先発）を選任、人材派遣登録（人柄、職場との距離を優先）
 - ・会員から、運転希望者24名を選任（但し、他の仕事を実施中のため、適宜、人材派遣登録を行う予定）
 - ・更に、会員から、4名（後発）を選任、人材派遣登録（人柄、中型車両の運転経験を優先）
 - ・9月16日から、先発5名が勤務開始（運転に対する不安、勤務時間の都合等で、4名辞退）
 ⇒9月中は、非常勤職員（6名）の指導により、運転の練習、ルートの確認等を実施
 - ・10月1日から、柏シルバー（5名）と非常勤職員（3名）の体制で、業務を開始
 ⇒後発（4名）は、当面の間、非常勤職員（3名）等の指導により、運転の練習、ルートの確認等を実施
- (5) 就労の意義
- ・**運転だけではなく、介護補助等を組み入れることにより、利用者の信頼感、安心感が向上し、同施設の評価も向上。**
 - ・**高齢者による生きがい就労の目的が達成できる。**
 - ・**職員（有資格者）の補助（③の仕事）を行うことにより、職員が、本来の業務に専念でき、サービスの更なる向上を図ることができる。**

派遣の事例－2 … 新たな分野に挑戦

特別養護老人ホーム／デイサービス

◆送迎車両の運転業務（朝方2時間、夕方2時間のみ）

（注）朝方と夕方、時々、小営繕（施設の軽微な補修、除草等）を追加することも検討中。

朝		夕
---	--	---

◆Aさん（66歳）が就労

（注）NHK「ゆうどき」で放送（平成26年10月30日）

【Aさんの準備状況】

千葉県シルバー人材センター連合会主催の研修を受講を修了

- ①介護職員初任者研修（8月20日～9月26日、@松戸）…旧ホームヘルパー2級
- ②福祉輸送ヘルパー養成講習（10月9日～17日、@柏）

※研修は、祝祭日を除き、毎日実施、1日でも欠席したら不合格

漁具メーカーを退職後、新たな資格に挑戦！

派遣の事例ー3 … 経験を活かす

グループホーム

◆送迎車両の運転業務(朝方2時間、夕方2時間のみ)

朝

夕

◆Bさん(66歳)が就労 … 開拓員がコーディネート

【Bさんの準備状況】

- ①ホームヘルパー2級の資格を所有
- ②介護施設で、送迎車両の運転を実施
- ③セカンドライフファクトリー主催の「生活支援ABC塾」を修了

長年の介護施設の運転手の経験を活かして就労！

(注)「派遣の事例ー1」の候補者であったが、居住地が遠方であったため、近所の介護施設の求人を開拓した後、紹介。

○マッチングの課題

- 開拓した業務へのマッチングにあたっては既存の会員台帳から就労が可能と考えられる人の抽出を行ったが会員台帳には記載されている情報は限られており、JCが開拓した業務への適性を判断するには不足している。そのためJCは会員台帳から可能性がありそうな人を抽出し、全員に電話した上で業務への適性をヒアリングすることによりマッチングを行ってきた。今後、生きがい就労の量的拡大を図る上では、生きがい就労に適したデータベースの構築を図る必要がある。
- マッチングが不成立だった要因として、体力不足、技術不足、必要備品の不足が挙げられる(表4参照)。マッチングの成立率の向上に向け、高齢者の体力をJCが見極めること、技術不足を補うための研修会の実施、必要備品の確保が必要となる。

表 4 マッチングの不成立要因

業務	不成立要因
特養での夜間の見守り	73才であり、車いすを押すことに不安があり不成立
結婚式場での着付け支援	技術不足のため不成立
キャビネットの運搬	運搬車両が確保できないため不成立
不動産会社事務員	ハローワーク経由で決定したため不成立

d) 継続支援

○就労高齢者への継続支援

既に就労している高齢者に対して、マッチング後も電話等にて下記の点について

て継続的に確認を行い、就労高齢者にとってより適切な就労の実現に努めた。

- 就労に対する感想
- 就労当初と直近の勤務内容の変化
- 就労への要望事項、改善点
- 他の業務への転換意向

継続支援を通して、既に就労している高齢者であっても、より希望する業務が発生した場合には、既に就労済みの人を新規業務に配置転換し、元来その人が就いていた業務に別の人をマッチングすることにより、一人一人が適正にあった業務に就き、多くの人が就労できるよう支援を行った。

○事業者への継続支援

既に高齢者が就労している事業者に対して、マッチング後も電話や訪問にて下記の点について継続的に確認し、適切なマッチングに努めた。

- 就労当初と直近の勤務内容の変化
- 高齢者雇用に対する感想
- 就労高齢者、又は生きがい就労層の者に対する要望事項、改善点
- 別業務での高齢者就労の提案による業務開拓

また、一度開拓のため訪問した事業者に対しても継続的に連絡、又は訪問し、求人発生の有無の確認や高齢者就労の業務提案を行い、継続的な接触を保持した。高齢者就労の場合、最初の就労あくまでもきっかけであり、当初の就労内容に留まらず、そこからどのように拡張させていくかがポイントとなる。継続的に連絡を取ることで、求人の発生を迅速に把握し、又は業務提案できる関係の構築に努めた。

e) 柏市センターでの自立的活動の展開

JCによる活動は柏市センターや市の関係事業との連携を図りながらも、自立した活動として展開された。特に、柏市センターの就労開拓員が獲得した求人情報のJCとの共有や、就労開拓員による生きがい就労の開拓が行われるようになってきており、柏市センター内に生きがい就労の浸透が図られてきている。しかし、生きがい就労を更に自立して展開していくためには体制強化が課題となっており、柏市センターではH27年度生きがい就労の開拓業務を主とする就労開拓員を4名増員する予定となっている。

② 他地域センターとの連携

[H26年度計画概要]

- 柏市センターでの活動を他地域に展開するため調整を行う。
- 候補地としては、シニアが大量に発生し、対応の緊急性の高い都市近郊地域とする。

[H26年度実施事項]

横浜市センター及び横浜市役所、茅ヶ崎市センター及び茅ヶ崎市役所に対し、柏市センターでの取り組みを紹介し、H27年度の実装活動候補地としての提案、協議を行った。柏市センターでの実装活動の展開として、茅ヶ崎市センターでJCを配置した実装活動を行うこととなった。横浜市センターではセカンドライフの総合支援のため就労やボランティア活動の情報を一元化した窓口をH26年12月より開始しており、この総合支援の窓口の運用状況の意見交換、柏市センターとの比較を中心にH27年度連携を図ることとなった。

③ ジョブコーディネータ活動のマニュアル化

[H26年度計画概要]

- 日々の活動記録を残し、その成果と課題等を整理する。
- 上記を基に、他地域で展開するためのマニュアルを作成する。

[H26年度実施事項]

ジョブコーディネータ活動のマニュアル化に向け、柏市センターにおけるJCの活動記録を作成し、マニュアル執筆の際の視点の設定を行った。しかし、H26年度実績では実装事例の蓄積が数の面で十分でない点、また柏市センターだけを対象としているために蓄積事例が柏市センターの固有の条件に影響を受けている点が懸念される。全国センターへの普及に向けた汎用性の高いマニュアル作成には、柏市センター以外の事例との比較検討し、共通の条件と当該センター固有の条件と分類しながら進める必要があることからマニュアルの完成には至っていない。今後、柏市センターでの事例の蓄積を図ると共に、他地域センターでの取り組みを踏まえ、これらの比較検討を行った上で作成する。

④ センターのあり方・機能拡充に関する研究

[H26年度計画概要]

- セカンドライフの総合支援におけるセンターの役割について、関係者協議を実施

[H26年度実施事項]

柏市ではセカンドライフの総合支援のためのプラットフォームの構築に向け、セカンドライフ及び高齢者に対する意識変容の場としてのセカンドライフセミナーと個人相談の場としてのセカンドライフ相談窓口の運営を一般社団法人に委託し、H26年11月より開始した。このスキームでは、利用者へのきめ細やかなセカンドライフの支援にあたっては、主に高齢者へのアウトリーチと意識変容、活動のメニュー紹介を行うセカンドライフセミナー及びセカンドライフの相談窓口と、具体の活動のマッチングを行う柏市センターと連携方法に関して本実装組織内での検討を行った。また、生きがい就労以外の活動との連携を図るため、柏市セカンドライフネットワーク会議（柏市設置）に出席し、中間支援組織間の情報共有、連携に向け必要な協議を行った。

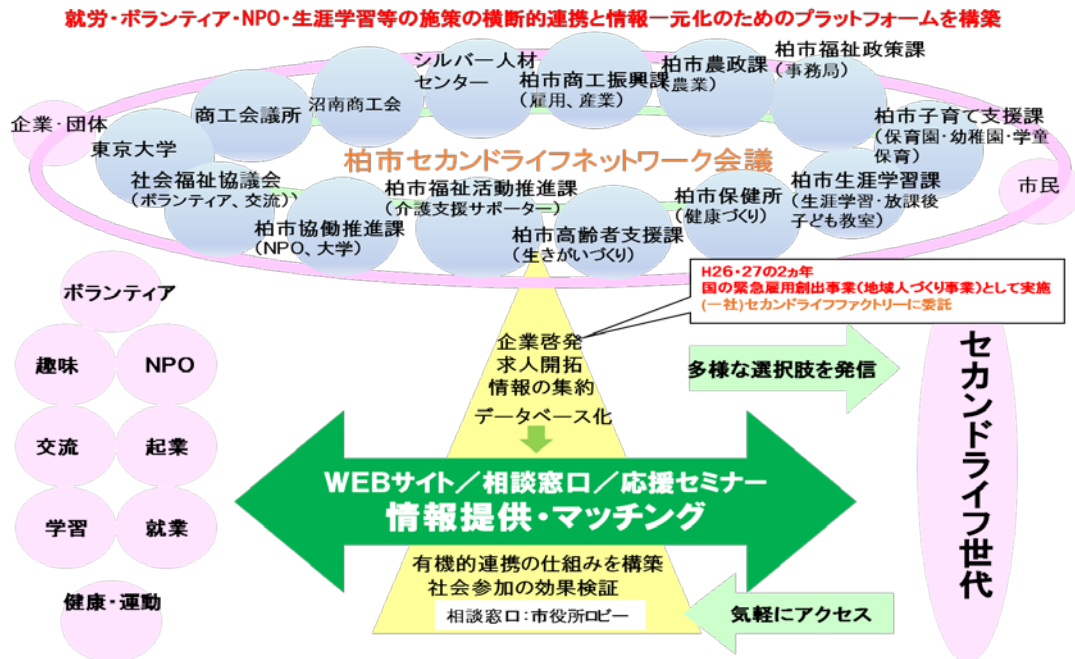


図 5 柏市でのセカンドライフの総合支援方法のイメージ

⑤ 厚生労働省への働きかけ

[H26年度計画概要]

- ・ 柏市センターでの成果について、厚生労働省に適宜報告

[H26年度実施事項]

全国で先駆的な取り組みをしているセンターと本実装組織との意見交換を実施し、柏市センターでの取り組み報告をすると共に、各センターの取り組みの報告を受け、意見交換を行った。意見交換の際には厚生労働省への出席を求め、センターが生きがい就労の課題と課題解決のプロセスの共有を図った。

表 5 先駆的センターとの意見交換会実施状況

日時	開催概要	参加者
6月9日	「マッチング」に焦点をあて、派遣事業を活用してマッチングに先駆的に取り組んでいるセンターとの意見交換を実施し、運用の際のポイント、課題、課題解決プロセスを共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松山市シルバー人材センター ・ 滋賀県シルバー人材センター連合会 ・ 厚生労働省職業安定局高齢者雇用対策課 ・ 柏市シルバー人材センター ・ 柏市商工振興課 ・ 柏市保健福祉部高齢者支援課 ・ 柏市保健福祉部福祉政策課 ・ IOG
3月24日	「業務の開拓・提案等」に焦点をあて、新規事業の創出に先駆的に取り組んでいるセンターとの意見交換を	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柏崎市シルバー人材センター ・ 佐倉市シルバー人材センター ・ 箕面市シルバー人材センター

日時	開催概要	参加者
	実施し、事業創出の際のポイント、課題、課題解決プロセスを共有	<ul style="list-style-type: none"> • 養父市シルバー人材センター • 養父市健康福祉部健康課 • 松山市シルバー人材センター • 厚生労働省職業安定局高齢者雇用対策課 • 滋賀県シルバー人材センター連合会※ • 横浜市シルバー人材センター※ • 横浜市経済局市民経済労働部雇用労働課※ • 横浜市健康福祉局高齢健康福祉部高齢健康福祉課※ • 茅ヶ崎市シルバー人材センター※ • 茅ヶ崎市企画部企画経営課※ • 柏市シルバー人材センター • 柏市商工振興課 • 柏市保健福祉部福祉政策課 • IOG

※オブザーバー参加

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 展示会への出展等

特になし

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
H26年4月9日	柏市センター入会説明会	柏市センター会議室	柏市センターでの生きがい就労の取組み紹介（参加者46人）	高齢者	
H26年5月8日	柏市センター入会説明会	柏市センター会議室	柏市センターでの生きがい就労の取組み紹介（参加者35人）	高齢者	
H26年6月11日	柏市センター入会説明会	柏市センター会議室	柏市センターでの生きがい就労の取組み紹介（参加者43人）	高齢者	
H26年7月7日	柏市センター入会説明会	柏市センター会議室	柏市センターでの生きがい就労の取組み紹介（参加者21人）	高齢者	
H26年8月6日	柏市センター入会説明会	柏市センター会議室	柏市センターでの生きがい就労の取組み紹介（参加者	高齢者	

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
			30人)		
H26年9月9日	柏市センター 入会説明会	柏市センター 会議室	柏市センターでの生きがい 就労の取組み紹介（参加者 26人）	高齢者	
H26年10月7日	柏市センター 入会説明会	柏市センター 会議室	柏市センターでの生きがい 就労の取組み紹介（参加者 37人）	高齢者	
H26年11月7日	柏市センター 入会説明会	柏市センター 会議室	柏市センターでの生きがい 就労の取組み紹介（参加者 31人）	高齢者	
H26年12月5日	セカンドライ フセミナー（柏 市主催）	東大柏キャン パス	柏市センターでの生きがい 就労の取組み紹介（参加者 39人）	高齢者	
H26年12月11日	柏市センター 入会説明会	柏市センター 会議室	柏市センターでの生きがい 就労の取組み紹介（参加者 30人）	高齢者	
H27年1月7日	柏市センター 入会説明会	柏市センター 会議室	柏市センターでの生きがい 就労の取組み紹介（参加者 19人）	高齢者	
H27年2月9日	柏市センター 入会説明会	柏市センター 会議室	柏市センターでの生きがい 就労の取組み紹介（参加者 45人）	高齢者	
H27年3月4日	高齢者雇用促 進セミナー	柏商工会議所	柏市主催の事業者向けの生 きがい紹介と啓発セミナー （参加企業21社）	事業者	
H27年3月9日	柏市センター 入会説明会	柏市センター 会議室	柏市センターでの生きがい 就労の取組み紹介（参加者 39人）	高齢者	

（3）新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

① 新聞報道

特になし

② TV放映

放送日：H26年10月30日、放送局：首都圏ゆうどき（NHK）、主な内容：健康寿命延伸の取組みの一つとして柏市センターでの生きがい就労を紹介

③ ラジオ報道

特になし

④ 雑誌掲載

特になし

(4) 論文発表 (国内誌_____件、国際誌_____件)

特になし

(5) WEBサイトによる情報公開

特になし

(6) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

特になし

(7) 特許出願

特になし

(8) その他特記事項

特になし